

平成 30 年度第 1 回災害対策委員会議事録

日時：平成 30 年 9 月 17 日（月） 12：50～14：00

場所：TKP 品川カンファレンスセンター6階 J 会議室

出席：大村裕子、青木和恵、赤木由人、中村利夫、舟山裕士、靱山こずえ、尾崎麻依子

欠席：臼杵尚志、熊谷英子、柴崎真澄、西口幸雄、藤田秀人（敬称略）

配布資料：1. 議事予定 2. 平成 30 年の各地災害に関する情報について
3. 中国四国地区大雨災害に関して（臼杵委員提供）

1. 北海道ブロック代表について

- 北海道ブロック代表の佐々木一晃先生がご逝去された後、後任が決定するまでの代理として札幌医大の西舘敏彦先生が窓口となり災害被害状況などをまとめていただいている事が大村委員長より報告された。

2. 災害対策活動について<資料 2. 3>

1) 大阪北部地震

- 13 市町に災害対策援助法が適用されたが、地域対応ができており会員、販売店、JOA へ支援要請はなかった。

2) 中国四国地区大雨災害

- 災害発生 1 週間後に OAS との会議が開かれたが、その頃には既にライフラインが復旧したため支援物資は必要とならなかった。また、OAS も販売店の状況把握ができていた。個別対応が可能であったため学会への支援要請はなかった。
- 中国四国ブロックは、ブロック代表および県代表が決定されていたこともあり迅速にメールでの報告が入ってきた。
- 高知、松山の NHK を通じて「広報依頼」をしたところ「告知依頼」とフォームの変更を指示された。

3) 北海道胆振東部地震

- 元北海道認定看護師研修センター専任教員の遠藤弘子さんを中心に情報収集をしていただいた。各ブロックには連絡網の中心となる存在が必要と思われた。

以上が、大村委員長より報告された。

4) 広報活動について

- 災害発生後は JSSCR ホームページに、通常の手続きより早く掲載したことが青木委員より報告された。現在ホームページ上トップメニュー『災害対策』の中に災害に関する情報が掲載されているが、最新の災害の情報をトップ画面に掲載する必要があるか青木委員より確認され、支援物資提供が必要となった場合に検討する方針と

なった。またホームページ掲載のタイミングについては、災害対策援助法の適応となり、県代表に必要性を確認してから行うことが大村委員長より確認された。

- ・ダウンロード用災害対策リーフレットに掲載されている事務局について、学会事務局が株式会社TKPメディカルリンクに変更になったため改定したことが報告された。印刷済みの配布用リーフレットはそのまま使用することが確認された。

3. 災害対策ブロック

1) ブロック連絡網について

- ・雛形に合わせた内容の追加修正はブロック代表を通じて依頼しており、現在のところ東北ブロック、北関東ブロック、四国ブロックが完成している。連絡が取れていないブロックもあるため、今後も尾崎委員が確認をすすめる。また今回提出後の内容変更については、県代表から尾崎委員まで（Ccでブロック代表）直接連絡をもらうよう依頼したことが報告された。
- ・ブロック副代表（皮膚・排泄ケア認定看護師）の選出方法について委員より確認があった。日本創傷・オストミー・失禁管理学会（以下 JWOCM）にも所属されている方が活動はスムーズとなるが、地域代表者が把握できていないため、連携の調整をしながら選出をすすめていく方針とした。

2) 今後の課題

- ・これまで関連学会との連携が検討されてきたが、今後は両学会理事長、災害対策関連の責任者と協議の場をもつ方向である。また日本褥瘡学会とも連携を進めていくことが報告された。

4. 第36回 JSSCR 災害対策企画

- ・災害のあったブロック（北海道、中国四国、関西）より今回の報告をしていただく事が提案された。また取り組みの進んでいる藤枝市について中村委員より報告していただくよう提案され承諾された。
- ・今後災害対策企画での司会進行を当番制にすることが提案され、第36回は赤木委員と籾山委員が担当することが決定した。

5. その他

- ・地域活動を充実させるために、ブロック代表会議にはブロック代表・副代表だけでなく都道府県代表にも出席してもらうようにアナウンスしていく事が確認された。